

## PRESS RELEASE

## 障害者と健常者との垣根のない世界に向け

## 「True Colors Festival Special Concert 2025 共鳴の宴」開催！

12 月 4 日、東京・増上寺 大殿にて日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 主催「True Colors Festival Special Concert 2025 共鳴の宴」が開催された。本コンサートは、「企業活動における障害者包摂」をテーマとする国際会議「SYNC25 アカウンタビリティ・サミット」と連携し、この国際会議に参加するグローバル企業経営幹部、約 250 名を招待して行われた。



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS は、2016 年の設立以来、規制の形式にとらわれない展覧会や多彩な舞台芸術のイベント「True Colors Festival」を実施。アートやエンターテインメントの力を活かして多くの人に“多様な在り方”を楽しむ体験を届け、すべての人に居心地の良い未来社会を作る実験室を目指している。「True Colors Festival」は、誰もがその人らしさ（True Colors）を大切にしながら共に生きる未来を展開するプロジェクトで、障害をはじめ、多様な違いが重なり、誰もが輝ける未来社会をステージ上や会場で作り出している。

今回の「共鳴の宴」は、2024 年のエミー賞受賞作『将軍-SHOGUN-』の石田多朗が音楽監督を務め、世界的演劇祭「エジンバラ」で 5 つ星を受けた山田淳也が総合演出を手掛ける、まさに世界基準のイベントとなった。本コンサートは、増上寺 大殿の厳かな雰囲気の中、和太鼓の音が鳴り響き、障害者と健常者のダンサーによる共演「沈黙の中の音」で始まった。音と光の演出が、ダンスと太鼓の競演の魅力と奥深さを際立たせていく。



続いて、「ちがいの出会い」と題して、日本古来の楽器を使った“雅楽”と西洋楽器のコラボレーションを展開。日本と西洋、どちらの楽器も歴史があり、それぞれの普遍性／不変性が見事な共鳴をもたらした。

## PRESS RELEASE

た。そして「ともに奏でる」では、古典雅楽演奏を、「響きあう声と音なき言葉」では“手話狂言”で「蟹山伏」を披露。手話でセリフを伝え、狂言独特の動きで世界観を示していく。こういう日本伝統の芸能も国境を越えていく。

そして終盤は、ピアノと歌による「Over the Rainbow」、アコースティックギターの演奏による「Moonlight」、車椅子のダンサーも舞う「My Heart Will Go On」（セリーヌ・ディオンのカバー）、オーケストラによる映画音楽の巨匠エンニオ・モリコーネのメドレーや、ムソルグスキーの「キエフの大門」、坂本龍一の「戦場のメリークリスマス」といったお馴染みの曲に加え、最後は音楽監督の石田の楽曲「常世」で締めくくった。

障害者と健常者の垣根のない世界が、このコンサートの中でもしっかりと表現。未来へと繋がるイベントとなった。

詳しくはこちら

<https://www.diversity-in-the-arts.jp/tcf/spc2025/pamphlet.pdf>

「True Colors SPECIAL LIVE 2025 in ZOJOJI 共鳴の宴 主催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」

（宣伝：キョードーメディアス）

